2023年2月28日発行
第19号
編集：歴らぼ編集部

歴らぼ通信

目次　01　歴史文化学科の活動ほか　02　歴らぼ活動ほか

01　歴史文化学科の活動ほか

第1回「歴史総合」「地理総合」研究会開催

2023年1月17日に、今年度から高校社会科に導入された新科目、「歴史総合」・「地理総合」の現状と課題を考える研究会を開催しました。第1回目は、本学大学院応用社会専攻歴史文化コースで教員専修免許を取得し、現在大商学園高等学校で教鞭をとられる吉田有宇哉氏に、「地理総合導入に向けて―私の実践と課題―」と題するご報告をいただき、その後1時間程度議論を行いました。対面とリモートを併用しましたが、高校教員、学生、大学教員の約30名の参加を得て、活発な議論がなされました。歴史文化学科としては、今後もこの研究会を継続し、高校現場との交流の中で新しい歴史・地理教育の構築に貢献したいと考えています。（教員・髙田実）

白鶴プロジェクトでの工房見学（森本錺金具製作所）

2022年8月8日、私達は京都の森本錺（かざり）金具製作所を訪問しました。職人の方々の説明を受けながら錺金具の製作工程を見学しました。錺金具は、日本の建造物において伝統的に用いられてきたもので、歴史的建造物や神輿など様々な所で目にすることができます。用途により厚さが異なる銅板を、加工し易いように炎で熱し、希硫酸液に浸けた後取り出し、表面の汚れを洗い取る「なまし」という作業も見学しました。また、銅板に墨で型紙から文様を写し、鏨(たがね)を使って、立体的に銅板を打つ「打出し彫」や文様に合わせて銅板を打ち抜く作業を体験しました。職人の方々の丁寧な指導のおかげで、貴重な経験となりました。（2回生・福重湖雪）

歴らぼ通信の刊行は、これで19号となりましたす。歴らぼ通信では、歴史文化学科における様々な活動を紹介しています。通信に記載される記事の多くは、ホームページ「歴らぼの WEB サイト」（https://www.konan-u.ac.jp/hp/rekibun/）でも紹介していますので、そちらもご覧下さい。なお、各記事を書いた学生の年数は記事の時期に合わせています。

出口ゼミ巡検（京都府伏見区）

2023 年 1 月 16 日、出口ゼミでは、京都市伏見区でのフィールドワークを行いました。その名の由来でもある「伏し水(地下水)」に恵まれた伏見は、古くから酒造りが盛んであり、まず、黄桜や月桂冠といった有名酒造メーカーの資料館を見学しました。そこでは、お酒の造り方のほか、近代に入って伏見の酒が灘の酒に並ぶ全国区の知名度を獲得していく歴史や、伝統的製法から徹底的に管理された工場での製造へ転換する経緯などを学ぶことができました。その後は、皆で御幸宮神社へ参詣しました。御幸宮神社もまた、境内に湧く名水で知られる神社であり、水の豊かさに彩られた伏見の文化には、灘に立つ甲南大生としてのシンパシーも感じました。（2 回生・篠原孝周）

鳴海ゼミ巡見（名古屋市）

2022 年 12 月 8・9 日、鳴海ゼミの 2～4 回生は、巡見で名古屋市を訪れました。初日はトヨタ産業技術記念館でトヨタの始まりである紡織事業から現在の自動車製造までの事業の変遷や歴史を見学しました。自動織機の実演に始まり、時代の流れに伴う機器の進化、自動車事業への参入、実際のプレス機や部品の削りだしなど、技術の発展を感じることのできる体験でした。2 日目は名古屋城を中心に、城郭風屋根を持つ市役所・県庁、市政資料館、文化のみちに建つレトロ建築群など周辺の歴史的建造物を見て回りました。日本の近代化の流れを肌で感じることのできた充実の巡見となりました。（3 回生・村上剣斗）

中辻ゼミ巡見（家島）

2022 年 11 月 23 日、中辻ゼミでは、兵庫県姫路市の家島でフィールドワークを行いました。あいにくの雨でしたが、個別テーマを持つグループ毎に行動し、島民の協力のもと充実した一日となりました。私達のグループは島民のライフスタイルに焦点を当て、小売店を中心に聞き取り調査を行いました。コロナ禍の中ですが、私達の質問に真摯に答えて頂き、何でも協力してあげたいという島の方々の姿はとても素敵で心が温かくなりました。諸島で人の住む主な島は、家島、坊勢島、男鹿島、西島であり、それぞれの特性を活かした暮らしと産業を行っています。姫路港から約 30 分の船旅で行けるので、是非一度訪れてみてください！(2 回生・佐藤葵生)

髙田ゼミ巡見：坊勢島への訪問

2023 年 2 月 19 日、髙田ゼミの 2・3 回生は、兵庫県姫路市の坊勢島を訪れました。当日は午前から雨でしたが、地域の食べ物や景色を満喫できました。この島は年中漁業が盛んで、多くの漁船が港に停泊していました。そして坊勢の新鮮な海鮮料理を海上レストランで頂きました。坊勢－姫路間のフェリー乗り場のすぐ隣に綺麗な橋のかかる恵美酒神社があり、綺麗な景観の写真スポットでした。島にはラーメン屋やレストラン、様々な施設がありました。それらの場所は地域のコミュニティの場となっており、島の人達と話す恰好の場所でした。姫路からバス 30 分、フェリー30 分の計 1 時間程で行けるので、皆さんも是非訪れて下さい！　(3 回生・延原彩斗)

2022 年度の卒論中間発表会（髙田・東谷合同ゼミ）

2022 年 11 月 17 日、東谷ゼミと高田ゼミ合同で卒論中間発表会を行いました。両ゼミ合わせて 20 人ほどの参加でした。発表は各ゼミから２名が行いました。私の普段のグダグダなゼミ発表とは違い、どの発表もしっかりしたものでした。発表後の質疑応答において、普段関わらない他ゼミからの質問は、新たな気づきや知見、自身の研究を客観的に見つめ直す良い機会となると思いました。来年は私が卒論を書く番です。正直できる気がしません。ドラ○もんの秘密道具でもあればな…（３回生・“一年後に苦しみがひかえた”村田愛誠）

兵庫津の巡検（講義：国際化の歴史）

2023 年 1 月 31 日、「国際化の歴史」（担当：東谷教授）の学外講義として兵庫津周辺の史跡および兵庫津ミュージアムの巡検を行いました。この講義は、江戸時代の日本がいわゆる「鎖国」下にあっても国際交流が活発であった事例を紹介するもので、兵庫津には朝鮮からの通信使が訪れていたことが挙げられました。そこで、実際に江戸時代の地図資料を持って周辺史跡を探索すると、通信使を乗せた船舶が停泊した港や宿泊した屋敷跡を確認できました。兵庫津ミュージアムでは、古代から近現代における兵庫津の変遷を紹介するとともに、どのような国際交流が行われてきたかを伝える展示となっており、非常に興味深いものでした。（2 回生：大槻耕央）

02　歴らぼ活動ほか

歴かふぇ 14 回・永井純一先生

2023 年 1 月 19 日、歴文ラボラトリにて第 14 回歴かふぇを開催しました。講師の永井純一先生（現代文化論担当）は、「映画、ドラマ作品と音楽～サウンドトラックを含んだオススメ作品について～」というテーマで、主に Netflix を用いつつ様々なコンテンツを紹介されました。歴かふぇということでレジュメは喫茶店のメニュー風となり、海外ドラマやアニメ、ホラー、サスペンスなど、様々なジャンルを音楽と絡めてお話しされました。その中で専門的視点や映画館での見方などの話題があり、普段聞けない学びもありました。一方向的でなく私達もオススメ作品を教えあう時間もあって、意見交換を行いつつ、とても良い雰囲気で有意義な時間となりました。(2 回生・佐藤葵生)

読書班・遺跡巡り班巡検（近江八幡）

2022 年 7 月 3 日、読書班・遺跡巡り班で近江八幡へ巡検に行きました。近江八幡は、江戸期に近江商人の街として、明治期では近江兄弟社の創立者の一人で、神戸女学院の校舎群の設計者でもあるヴォーリズの活動拠点の街として有名です。近江八幡の町並みは、八幡堀や伝統的な日本家屋と洋風近代建築が合わさっており、江戸から明治の近江八幡の繁栄が見て取れました。当日はあいにくの雨でしたがかなり充実した巡検になりました。たねやのかき氷は絶品！（3 回生・畑匡洋）

本の紹介：『中世史とは何か』（図師宣忠著、2022 年刊）

2022 年 10 月に歴史文化学科に着任しました図師宣忠です。中世ヨーロッパ史を専門としています。

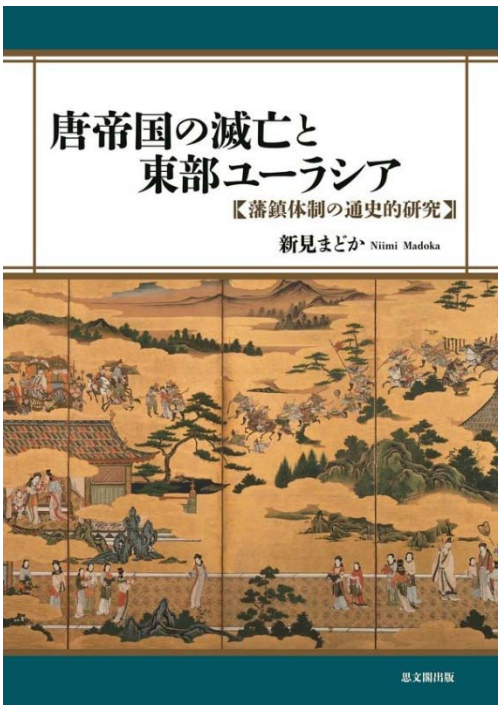
イギリス・ケンブリッジ大学歴史学部のジョン・アーノルド教授が執筆した『中世史とは何か』という本を赤江雄一先生（慶應義塾大学）と共訳で刊行しました。ファンタジー世界の源泉となってきた〈中世〉という時代について、歴史家がどのような史料から何を読み解いてきたのか、アーノルド先生がさまざまな事例を紹介しながら丁寧に解説してくれています。

高校で導入された「歴史総合」という科目は近現代史がメインとなっていますが、大学で学ぶ歴史学では近現代史以外にも多彩で興味深いテーマがあなたを待っています。中世史を通じて歴史的なものの見方に触れながら、歴史学の醍醐味を味わってみませんか？　今を生きる私たちにとって歴史とは何か、過去との向き合い方を考える上でもたくさんのヒントが詰まっている本です。（教員・図師宣忠）

本の紹介：『唐帝国の滅亡と東部ユーラシア』（新見まどか著、2022 年刊）

2022 年 12 月、『唐帝国の滅亡と東部ユーラシア――藩鎮体制の通史的研究』（思文閣出版）を刊行しました。タイトルにある「唐帝国」とは、7 世紀から 10 世紀初頭まで、中国にあった王朝の名。日本も遣唐使を派遣し、その文化や制度に憧れました。しかし、唐が絢爛たる世界帝国であったのは、実は 8 世紀半ばまで。

本書では、日本であまり知られていない 8 世紀後半～10 世紀の唐代史を、内陸アジア世界や海域アジア世界との連動の中で捉え直します。時代の変化に柔軟に対応し、敵対勢力すら利用してしたたかに延命を図りながら、やがてこれまで支えてきてくれた人々を切り捨てはじめ、最後は誰からも見放されてしまう。滅びに向かう王朝の姿は、どこか現代にも通じます。（教員・新見まどか）



編集後記

あと 1 か月で 4 回生も卒業です。さみしい。ですが本年度最後の通信を前代表に編集して頂けたのは大変うれしいと同時に、偉大さを感じます。4 回生の皆さん、大変お世話になりました。ありがとうございました。（畑）／色々あって今回編集を担当しました。編集部で過ごした 4 年間は、とても楽しかったし良い経験になりました。最後まで携わることができて嬉しかったです。今後とも歴らぼ編集部をよろしくお願いします。（徳留）／今回はほぼ同時に通信 2 号分と岡本周辺マップを編集・発行することとなり大忙し笑（鳴海）

編集：徳留亜美（前代表・4 回生）・畑匡洋（代表・3 回生）・鳴海邦匡（教員）
発行：甲南大学文学部歴史文化学科　　発行日：2023 年 2 月 28 日
連絡先：〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1 TEL078-435-2874（学科事務）